



【おうち英語】幼児期は話すことに特化すべし

## 目次

- オンラインレッスンの始め時
- インプットが溜まれば自然に英語はあふれ出す?
  - アウトプットの機会をいつまでも待たない
  - 幼児期は話すことに特化すべきその理由

### ■ オンラインレッスンの始め時

私が主宰しているオンラインスクールでよくいただく質問に  
「うちの子は〇歳ですがオンラインレッスンは早いでしょうか？」  
というものがあります。

この質問への回答は正直「人によりけり」なところがあり、一概にお答えするのが難しいところがあります。

そしてどんなオンラインレッスンを求めるかでも答えは変わってきます。

タブレットやパソコンの前でお利口に座ってワークブック的なことを25分やろうと思えば  
英語の読み書きが一人でできるようになってから  
それこそ小学生にならないと難しい子もいますし

インプットメインで軽いアウトプットも少し、親子で楽しみたい♪  
というご希望であれば2歳からぐらいでも可能だったりします。

わが家がオンラインレッスンを開始したのは娘が4歳くらいの時でした。

ちょうどオンライン英会話スクールの創設期と重なり物珍しさも手伝って自然な形で挑戦してみることができたんですよ  
ね。

その当時、おうち英語の情報交流サイトだった SNS の Macoron (マコロン) で  
オンライン英会話スクールのことが話題になり

「オンラインで見知らぬフィリピンの先生と25分も話すなんてー!」と  
内心想いつつも、

【赤信号みんなで渡れば怖くない】的に続々とみんなが参入していった記憶があります。

最初はドキドキしたものの、一度挑戦してしまえばなんてことなく、

ドンドンそのお手軽さの虜となり

オンライン英会話をアウトプットする場として

これまで14年ほぼ毎日利用する形で重宝することになったのです。。。

オンラインレッスンを始めた当初、それまで私が語り掛けを積極的にしてこなかったということもあり  
娘は正直それほどしゃべれませんでした。

オンライン英会話のスタート時期目安を

「話せる」というものにしていたら

わが家の子どもたちはオンラインレッスンを一生始めないまま終わっていたかもです(^^;

たぶんずっと英語を子どもが自ら話し始めるなんて奇跡は起こらなかったと思うので。。。

### ■ インプットが溜まれば自然に英語はあふれ出す?

『インプットが十分であればアウトプットは自然に始まる説』を唱える人もいますが、  
それこそ仮説なんじゃないかと思っています。

というか、原理的にはそうかもしれませんが、

英語も言語の一つ、つまりコミュニケーションの道具であることを考えると

周囲の人が誰も英語を話していない環境の中で

突然子どもが一人だけ英語を話し始めるって考えるの無理ないですか？

コップの水が溢れるように子どもの中の英語が一定量溜まったからといって勝手に溢れ出してくると考えるのは子どもの社会性などを無視しています。

そんなに単純な話なら日本人はここまで英語習得に苦労しないでしょに・・・。

稀にコップ理論を体現するかのように独り言で英語をアウトプットする子もいたりしますが独り言でアウトプットしていたとしてもずっと独り言ではコミュニケーションの道具としての生きた英語を話していると言えないのではないのでしょうか。

やはり生身の人間と会話を会話を交わしていく機会は絶対的に必要だと思います。

コップから溢れてきたとしてもそれをただ溢れさせているだけではその水を有効活用することはできないようなものですね。

### アウトプットの機会をいつまでも待たない

「子どもがまだ英語を話していない」ことは  
「英語のインプットがまだ十分じゃない」「英語を話す準備が整っていない」  
ということでは決してなく

「他者と英語を話す機会を与えられていないから英語を話さないのではないのか」

と考えるべきなのではないかと私は思います。

そう思うと

「そろそろ始めてみようか」と思った頃がオンラインレッスンの始め時であり、

勇気を出して一歩を踏み出してみたら後は子どもの様子を客観的に見て子どもが嫌がるそぶりを見せていると思ったら「早かったんだね」と一旦撤退してもよいと思います。

オンラインレッスンの開始時期の遅い早いは  
このように実際に挑戦しての子どもの様子から判断すべきであり  
やってもいないのに大人の勝手な憶測で「早いだろう」とか  
第三者のアドバイスや体験談を鵜呑みにして  
早いとか遅いとかを判断すべきではないと思います。

一番信じる物は目の前の子どもであって、それ以外にはないのだと私は思っています。

### 幼児期は話すことに特化すべきその理由

私が子どものオンラインレッスンを始めたときはあんまり難しいことは考えなくて  
「母国語方式って日本語と一緒に感じてやればいいんでしょ。  
日本語って毎日話すから英語も毎日話す時間があるよね～。  
じゃあ、毎日やらせよ♪」  
というアメンバーもビックリの単細胞思考でした。

それが功を奏したのか  
子どもの中の英語は引き出されていきました。

英語学習では4技能とバランスよく  
リスニング・リーディング・スピーキング・ライティングを  
伸ばしていくことが理想だと語られますが  
それは「英語学習では」なんですよね。

おうち英語は英語学習ではなく言語習得なので  
最初から4技能バランスよく習得できるわけがありません。

いかなる言語でも言語習得のプロセスは  
赤ちゃんはまず言葉を聞き、そして言葉を口にして、  
幼児期後半に読み、学童期に少しずつ書きをフォローしていきます。

おうち英語もそれに倣うなら  
幼児期は話すことに特化させるべきかと。

その話す機会を  
「インプットが足りないからまだダメ。早い〜!」  
と与えなかったり

「インプットがまだまだだから週に1回もやれば十分」  
と制限してしまうというの

日本語で考えたらあり得ないことですよ。

日本語のインプットが足りてないから  
「話すにはまだ早いから子どもに日本語を話させないようにしよう」  
なんて思う親はいないはず。

インプットと同時並行で  
アウトプットも少しずつ働きかけていく方が  
母国語方式の理念には適っていると私は思っております。

始め時だけでなく、子どものアウトプットスタイルはそれぞれ。

アウトプットの場合も  
オンラインレッスンという形が良いのか、

オンラインレッスンが良い場合でも  
どんなレッスンスタイルがいいのか

十人十色でみんな違います。

すべては子どもを見るしかないですね。  
今、Englishbudsはそのキャパシティから紹介制を採用しており  
誰でも彼でも当サイトのオンラインレッスンをご受講いただけるわけではありませんが  
その時期が来た方でご縁がある方には少しでもお力になればと思っております。

出典: MommyKayo Note 2021.5.8 公開記事